

This Page Is Inserted by IFW Operations  
and is not a part of the Official Record

## **BEST AVAILABLE IMAGES**

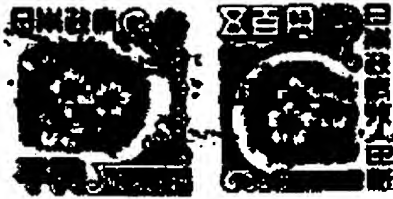
Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning documents *will not* correct images,  
please do not report the images to the  
Image Problem Mailbox.**



(1,500円)

実用新案登録願(1)

昭和47年9月6日

特許庁長官 殿

1. 考案の名称

フタビツツモノ  
物品収納ボックス

2. 考案者

ヒラフタ フタビツツモノ  
神奈川県平塚市平塚2810  
イ 井 誠

3. 実用新案登録出願人

東京都品川区北品川6丁目7番35号  
(218) ソニー株式会社  
代表者 盛田 昭夫

4. 代理人

〒160  
東京都新宿区西新宿7の11の15 ミヤコビル  
電話東京(03)383-1466番  
(6595) 弁理士 上 屋 勝  
同 所  
(7215) 弁理士 高 野 則 次

5. 添附書類の目録

(1) 明 細 書	1通
(2) 図 面	1通
(3) 願 書 副 本	1通
(4) 委 任 状	1通

47 104194

72.5.10-10.000

## 明 細 書

### 1. 考案の名称

物品収納バック

### 2. 実用新案登録請求の範囲

折曲線条に沿つて折曲げ可能な平板状の台紙と、この台紙上に密着されかつ前記折曲線条を挟んだ2箇所で台紙に止め付けられたフィルムとからなり、台紙を折曲げてフィルムを弛ませた状態で台紙とフィルムとの間に物品を挿入し、台紙を平板状に復元することによつてフィルムを緊張させて台紙上に密着させ物品をフィルムで台紙上に押え付けるように構成した物品収納バック。

### 3. 考案の詳細な説明

本考案は比較的薄物の物品収納に適用するのに最適な物品収納バックに関するものである。

従来テープレコーダ、ラジオ受信機、テレビジョン受信機等の電気機器を梱包する場合には、先ずこれら電気機器をカートン内に収納し、これらの荷物アクセサリ（接続及び電源コード、リール、リールキャップ等）は予めバックした状態で電気機器とカートとの間の隙間に挿入していた。

1字加入

この種従来の物品収納バックには箱状、フィルムスキャンバック等があるが、箱状は固定方法に問題がある上に透視が不可等の欠陥がある。またフィルムスキャンバックを行なうためにはスキャンバック機械が必要であるから、例えば物品メーカーがスキャンバックを行なおうとすれば当然機械設備の導入問題が発生する。またフィルムスキャンバックでは復元性が困難であつて一度フィルムを割してしまふと再使用出来なくなる等の欠陥がある。

本考案は上述の如き欠陥を是正すべく考案されたものであつて、折曲線条に沿つて折曲げ可能な平板状の台紙と、この台紙上に密着されかつ前記折曲線条を挟んだ2箇所で台紙に止め付けられたフィルム、例えば台紙に套嵌した筒状フィルムとからなり、台紙を折曲げてフィルムを弛ませた状態で台紙とフィルムとの間に物品を挿入し、台紙を平板状に復元することによつてフィルムを緊張させて台紙上に密着させ物品をフィルムで台紙上に押え付けるように構成した物品収納パックに係る。このように構成することによつて、物品を常時極めて簡単かつ容易にパックすることが出来る上に継続使用が可能となる。

次に本考案を電気機器の薄物アクセサリーの収納パックに適用した実施例を図面に付き述べる。

第1図～第3図は第1実施例を示したものであつて、第1図に示す如くダンボール紙等によつて構成された矩形の台紙(1)には半切線やミシン目その他折り線等からなる折曲線条(2)が形成されている。然してこの折曲線条(2)は台紙(1)の中央位置より一側方に片寄つた位置に形成されており、大端側の台紙主体(1a)に対して小端側の台紙折曲片(1b)がほぼL形に折曲げ自在に構成されている。この台紙(1)上に重ねられるフィルム(3)はポリエチレン等の熱収納性合成樹脂シート材によつて円筒状に形成されている。尚このフィルム(3)はパツタ後物品透視の観点から透明又は半透明であるのが好ましい。

次に物品のパツタ要領を説明すると、先ず台紙(1)に円筒状フィルム(3)を套嵌する。尚この時の套

嵌方向は折曲線条(2)の方向である。套嵌後円筒状フィルム(3)には熱を加えて適当に収縮させ、この円筒状フィルム(3)を台紙(1)に密着させる。尚円筒状フィルム(3)に適当な伸縮性があつてこれを台紙(1)に套嵌する丈でこの円筒状フィルム(3)が台紙(1)に密着可能であるならば、あえてこの円筒状フィルム(3)に熱収縮性素材を用いる必要はない。以上の如く円筒状フィルム(3)を台紙(3)に密着させた状態で、第2図の如く台紙(1)の台紙折曲片(1b)を折曲線条(2)部分で台紙主体(1a)に対してほぼL形に折曲げる。この結果円筒状フィルム(3)には弛みが生じて円筒状フィルム(3)が台紙(1)から浮き上るので、この状態で円筒状フィルム(3)の口(3a)から台紙(1)と円筒状フィルム(3)との間に接続及び電源コード、リール、リールキャップ等の物品(A)

を図の如く挿入する。然してこの状態で第3図の如く台紙(1)を再び平板状に復元すると強んでいた円筒状フィルム(3)が再び緊張して台紙(1)上に密着されるため、前記物品(A)は円筒状フィルム(3)によつて台紙(1)上に押え付けられて固定される。

以上が物品のバック要領である。そしてこの物品収納バックは通常既述の如く電気機器の梱包時に電気機器とカートンとの隙間に挿入されてしまふから梱包状態では台紙(1)が不割に折れ曲つて円筒状フィルム(3)に強みが出るようなことはない。然しながら必要に応じて台紙(1)の台紙主体(1a)と台紙折曲片(1b)とを例えば台紙挟み付け具によつて挟み付ける等積極的に固定して台紙(1)を折曲げ不能にすることも出来る。

尚円筒状フィルム(3)は予め一方の口(3a)部分



をシールして一端開口の袋状体として使用すること  
とも出来るし、また必要に応じて前記バック後に  
前記両口(3a)部分をシールすることも出来る。  
或いは台紙(1)の表面に予め塩化ビニールを塗布し  
ておいて前記バック後に円筒状フィルム(3)の両口  
(3a)近傍部分を加熱状態で加圧してこの台紙(1)  
上に熱融着するようにしても良い。

第4図～第6図は第2実施例を示したものであ  
つて、第4図に示す如く台紙(1)は2つ折りされて  
いて互に重ねられる上下両台紙板(1c)(1d)の  
うち上側台紙板(1c)には既述の物品(A)の収納  
位置を確定させるための収納穴(4)が複数個予め成  
形されている。然して上下両台紙板(1c)(1d)は  
互に重ねられた状態で既述の如くほぼL形に折曲  
げ得るように折曲線集(2)が夫々形成されている。

この第2実施例における物品のバック要領は既述の第1実施例のそれと全く同様であるがこの場合には第6図に示す如く各物品(A)が各収納穴(4)内に収納されてバック位置が確定されるため、バック時或いはバック後における台紙(1)に対する物品(A)の不測な位置ずれの問題は全く起らない。

本考案は上述の如く、台紙を折曲げることによつてフィルムを弛ませ、台紙を平板状に復元させることによつてフィルムを緊張させてこのフィルムを台紙上に密着させ台紙とフィルムとの間に挿入した物品をこのフィルムによつて台紙上に押え付けるように構成したものであるから、物品のバックを常時極めて簡単かつ容易に行なえる。またフィルムは透明或いは半透明のものを使用出来るからバック後の物品透視も可能となる。しかもフ

フィルムスキャンバック方法のものの如く特別なバック機械は一切不要であり、例えば台紙メーカーでフィルム庫密着の段階で物品メーカーに納めれば、物品メーカーで物品を簡単にバック出来る等大きな経済性を有している。更に物品バック後台紙を折曲げればフィルムを再び弛ませることが出来るから、物品の取出しが非常に容易である上に、台紙を再度平板状に復元すればフィルムを再度台紙に密着させて所望の物品バックを再度行なえる等継続使用が可能である等の大きな実用性がある。

#### 4. 図面の簡単な説明

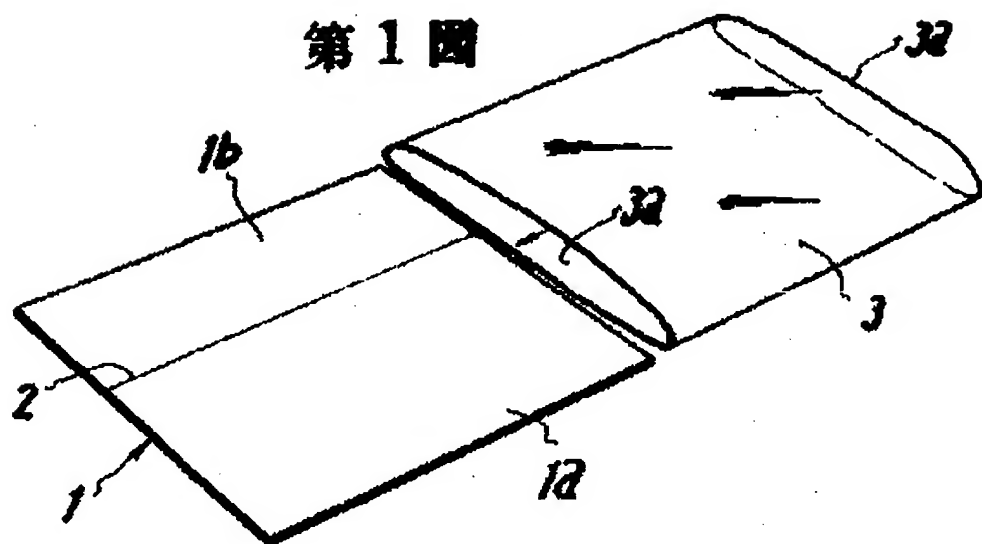
図面は本考案を電気機器の薄物アクセサリーの収納バックに適用した実施例を示したものであつて、第1図～第3図は第1実施例を示しており、第1図は台紙へのフィルム套嵌前の斜視図、第2

図は物品挿入状態を示した斜視図、第3図は物品バック後の斜視図である。第4図～第6図は第2実施例を示しており、第4図は台紙へのフィルム套嵌前の斜視図、第5図は物品挿入状態を示した斜視図、第6図は物品バック後の斜視図である。

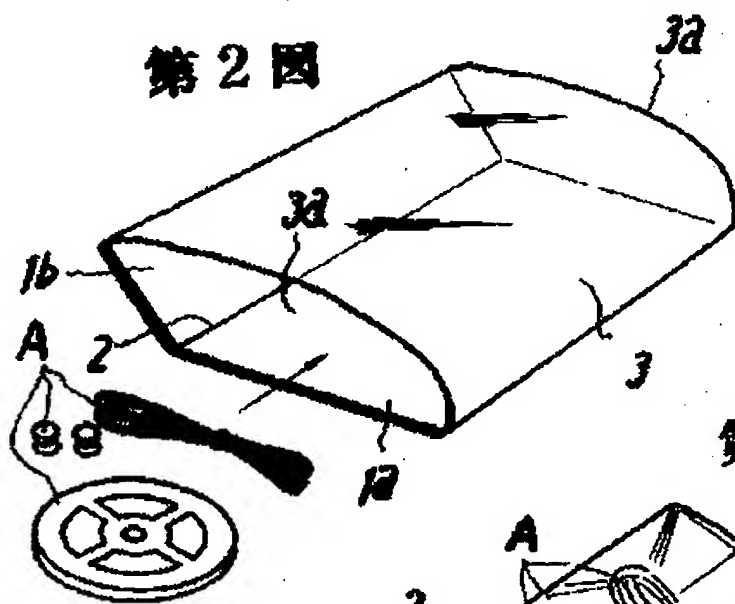
また図面に用いられた符号において、(1)は台紙、(2)は折曲線条、(3)はフィルム、(A)は物品である。

代理人 土 屋 勝  
高 野 則 次

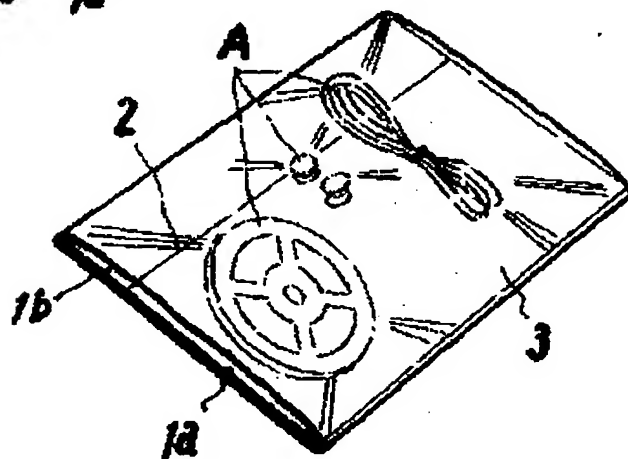
第 1 圖



第 2 圖



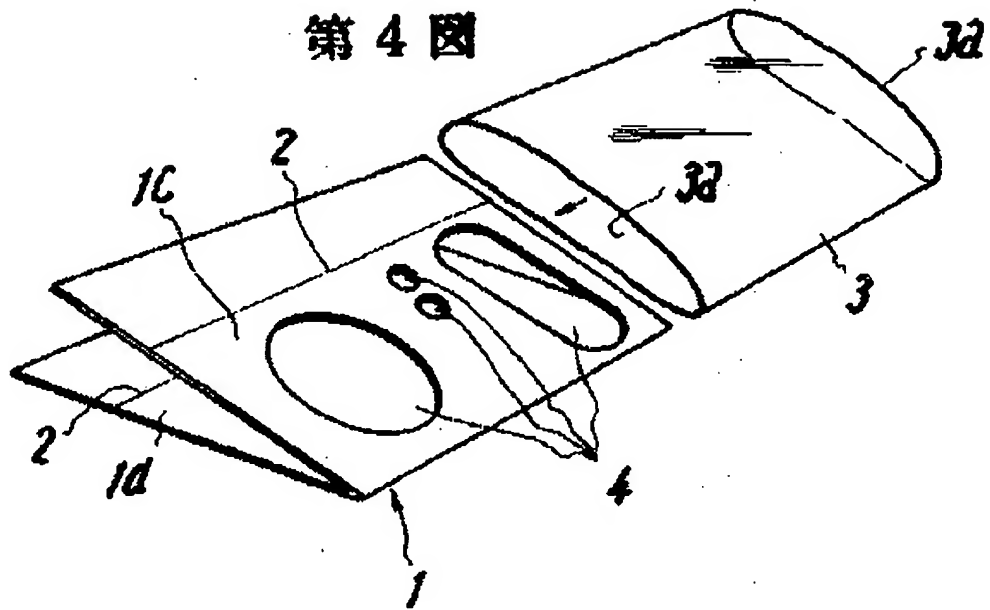
第 3 圖



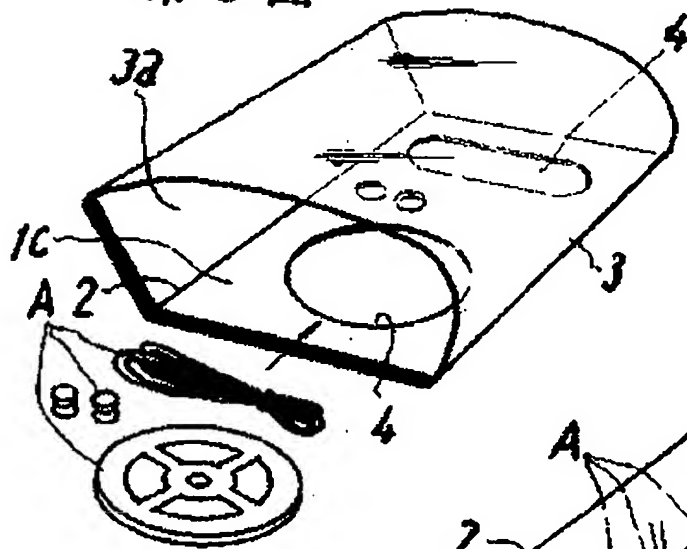
59982  $\frac{1}{2}$

出願人代理人 土 屋 勝 (他1名)

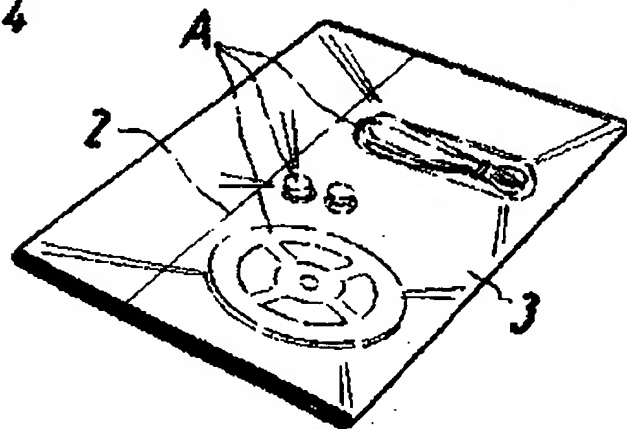
第4図



第5図



第6図



59982  $\frac{2}{1}$